

(別添2)

No.	31-02
策定年月	令和4年4月
見直し年月	

麦・大豆産地生産性向上計画 米子産地 (作成主体:米子市農業再生協議会)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

米子市は、弓浜半島の畑作地帯と、南部・箕蚊帳地域及び淀江地域の稲作地帯に分かれている。そのうち、南部・箕蚊帳地域及び淀江地域では、稲作の単一経営が多く、山沿いに畑地、梨、柿等の果樹地が存在している。

米子市では高齢化、農業の後継者不足が続く中、大型法人等に稲作中心での農地集約が進んでいるが、一方で市街地域でもあることから、農地以外への転用が増えており、優良農地の維持・保存に取り組む必要がある。近年の主食用米の需要減少を受け、飼料用米を始め、高収益作物等への作付転換を進めるとともに、高性能機械の導入や大型法人等での更なる団地化を進め作業効率が上がる大豆の生産を推進していく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

中生品種サチユタカを中心に、中国地方の業者へ主に豆腐用として販売されている。昨今の国際情勢のなか、国産需要の高まりもあり、本地の大豆の需要も高く、安定供給はもとより、さらなる出荷増が求められている。大豆の作付面積の維持、拡大を実現し、需要に応じた生産を行うために、高性能機械の導入と更なる団地化を進める。一方で、収穫時期の降雨による汚損被害が課題となっているため、早生品種の導入を進めているが、集荷施設や乾燥調製施設の荷受スケジュールや人員の配置といった荷受体制の調整が難航している。併せて、施設の老朽化が顕著であることも課題となっている。

(2) 生産における現状と課題

難防除雑草(帰化アサガオ)の増加により、適期管理や収穫作業の遅れが生じており、収量や品質に影響を及ぼしている。また、自然災害による冠水や排水不良も収量低下の大きな原因となっており、速やかな排水の為には、農地の集約(団地化)、高性能機械の導入による作業の効率化が重要となってくる。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	2年産	3年産(現状)	令和元年産	2年産	3年産(現状)	令和元年産	2年産	3年産(現状)
大豆	サチユタカ タマホマレ 星のめぐみ	41.6	41.5	46.0	171.5	161.9	207.7	71.3	67.1	95.6
作物計		41.6	41.5	46.0	171.5	161.9	207.7	71.3	67.1	95.6

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	サチユタカ タマホマレ 星のめぐみ					20	44.2%	
作物計		0	0.0%	0	0.0%	20	44.2%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

・団地の基準等は都道府県計画及び米子市農業再生協議会水田収益強化ビジョンにおける基準と同様。
 ・団地化率＝団地化を推進する上でまとまりのある地域(特定集落)の団地化面積／団地化を推進する上でのまとまりのある地域(特定集落)の大豆作付面積

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。

3. 課題解決に向けた取組方針・計画

(1) 取組方針

- ① 需要に応じた生産と販売の実現
大豆については、県内外の主に豆腐向け需要に応えるため、JA鳥取西部、全農とつとりと連携し安定生産の実施と生産拡大を図る。
- ② 団地化の推進
人・農地プランと連携しつつ、大型担い手農家を中心に大豆の団地化に向けた話し合いを実施し、土壌・排水条件・作業の効率化等に配慮し、団地化に向けた取組を行う。
- ③ 土づくり
土壌に起因する低収要因の改善に向けて、大豆を作付けするほ場の土壌診断と、その結果に基づく施肥等の土づくりに向けた取組を継続する。
- ④ 湿害対策
排水改良については、排水の改善に向けた計画的な暗渠の設置、心土破碎を実施するとともに、高度湿害対策(無材穿孔暗渠)を導入し、湿害対策の徹底に努める。
- ⑤ 高性能機械の導入による生産の高度化・省力化
高性能機械を導入し、適期作業及び効率的作業の徹底に努める。

※ ①需要に応じた生産と販売の実現、②団地化の推進については必ず記載する。③以降は産地の実態に即して記載する。

(2)計画

① 生産量

作物名	品種名	3年産(現状)			9年産(目標)			備考
		面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	生産量(t)	
大豆	サチユタカ タマホマレ 星のめぐみ	46.0	207.7	95.6	60.2	228.6	137.6	
作物計		46.0	207.7	95.6	60.2	228.6	137.6	

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 現状値は、計画策定時に数値が把握できる直近の年産を記載する。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 災害等により、現状値として直近年を用いることが適当でない場合は、現状値を7中5とすることが出来る。その場合備考欄に明記すること。

② 団地化

作物名	品種名	3年産(現状)		9年産(目標)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	サチユタカ タマホマレ 星のめぐみ	20	44.2%	48	80.0%	
作物計		20	44.2%	48	80.0%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。

※ 現状値については、原則、大豆は令和元年または2年産、麦は令和2年産または3年産の数値を記載すること。

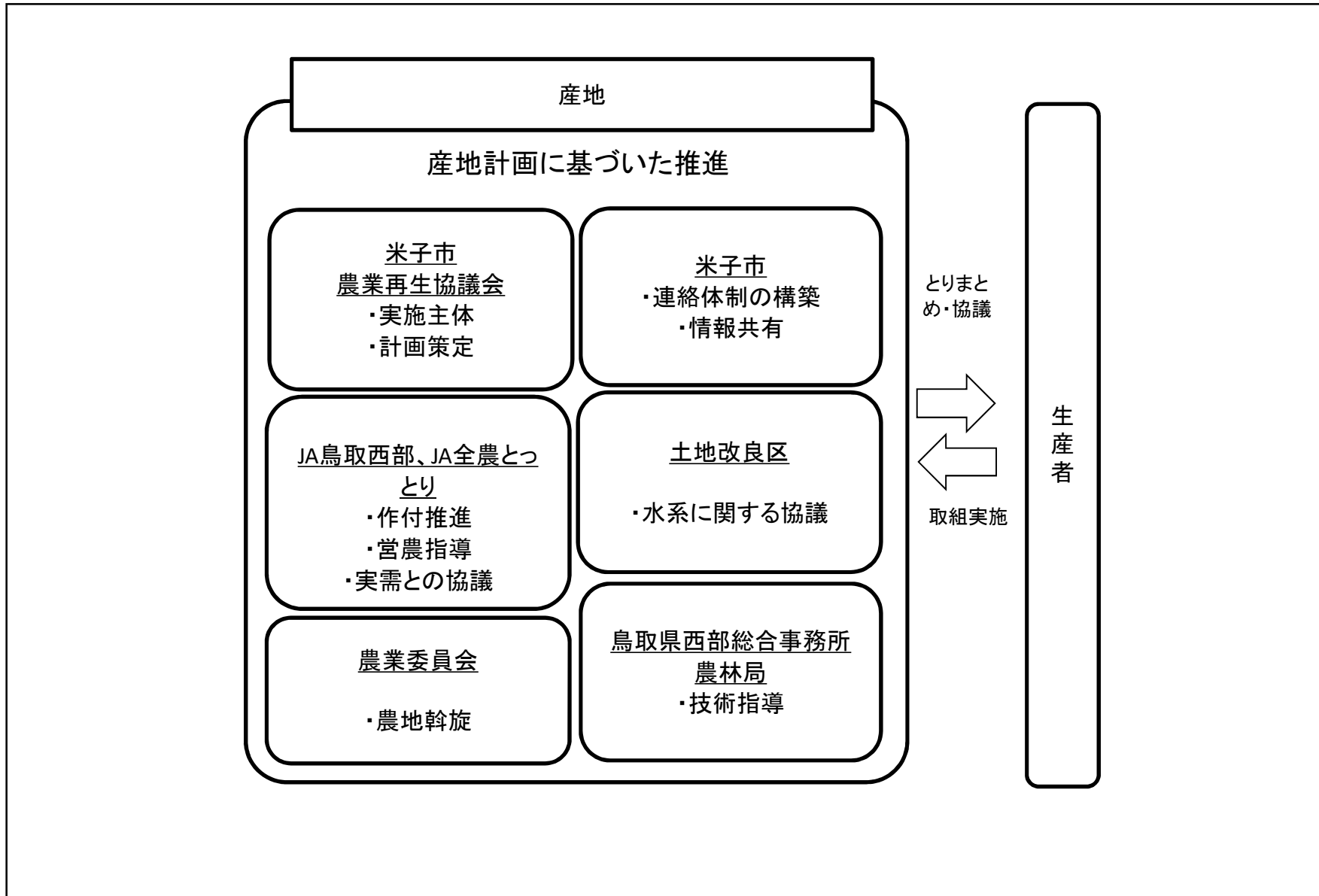
※ 目標年は計画策定年から5年後に生産(麦においては播種)する年産とする。麦と大豆で年産が異なっても問題ない。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。(大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能)

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目(作物)の作付面積に占める割合を指す。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載が良い。

4. 推進体制及び役割



5. 他計画・プラン等との連携

	連携する計画・プラン等名称	作成年	備考
1	米子市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン	令和4年度(最新版は現在作成中)	
2	人・農地プラン	各地域毎に作成(最新版は令和元年度)	
3			
具体的連携内容			
本計画の実施に当たっては、米子市農業再生協議会水田収益力強化ビジョン及び人・農地プランとの整合性を図る。			

6. 活用予定の事業

関連	事業名	備考
○	水田麦・大豆産地生産性向上事業	<ul style="list-style-type: none"> ・団地化の推進 ・先進的な営農技術の導入(湿害対策技術、土壌診断による土づくり) ・麦・大豆の生産性向上・生産拡大に向けた湿害対策技術の実施に資する機械の導入

※別紙第6の事業に該当する場合は、「○」を記載すること。その他の事業を活用する場合は「-」。

※備考欄には、活用する時期や具体的な取組内容を記載すること。